［Ⅲ　学校訪問報告］

東京・神奈川中学校等視察報告

今　村　敦　司*

1．期　間　平成13年７月１３日（金）14日（土）

2．訪問先　７月13日（金）　東京都品川区立城南中学校
品川区立東海中学校
品川区教育委員会
14日（土）　神奈川県伊勢原市　私立自修館中等学校

3．目　的　将来検討委員として本校の新しい学校像を探るために、以下のことを目的として視察を行う。

①　公立中学として進んだ取り組みをしている東京都品川区の中学校と教育委員会を訪問し、その理念と実践、現場の状況を知ると共に、今後の公立中学校の方向性を探り、本校の今後のあり方の参考とする。

②　新たな私立の中等教育学校を知り、私立の経営の考え方や教育理念、戦略と学校説明会の手法を学び、本校の広報活動の参考とする。

4．視察報告

①　品川区立城南中学校

品川区の中では、最も落ち着いた学校であるとのことである。小学校と隣り合わせの敷地にあり、創立５３年目を迎える歴史のある学校である。

この学校の特色は、

ア　人権尊重教育

イ　国際交流

ウ　小中連携教育

の３点にまとめられる。

アについてはこの学校の学区の事情もあり、古くから同和教育に取り組まざるを得ない状況があったのだが、現在はそれにとどまらず、いじめ、暴力、障害者との交流、国際交流といった多彩なアプローチによる人権尊重教育を研究、実践しており、学校訪問者も後を絶たないという。人権尊重教育を同和教育だけに限ることなく多彩な取り組みをしているところが区民にも評価され、「いじ

＊教育学部附属中・高等学校教諭

めが心配である」という保護者から「ぜひ入学させたい」との問い合わせが多数ある。この教育を推進するに当たって重視したことは、「生徒の思いやりを大切にした教育実践を積み重ねること」と「保護者の理解、参加を図ること」である。すべての行事を実行委員会制にして、教師の指導に必ず他者への思いやりの視点を入れることにより、参加者が気持ちよく取り組むことが出来る行事を、生徒に企画、運営させた。このことが、同和教育、いじめ、暴力障害者との交流、国際理解すべてに共通する大切な点であることを知ることが出来た。また、家庭教育との連携や学校教育の円滑な推進のために、行事の保護者の積極的な参加を促し、ＰＴＡ会報などの広報活動も行うことで、よりいっそうの保護者の協力を得られることが出来、学校教育の円滑な実施に効果を発揮しているとのことである。

イについては、実際にアメリカのポートランド市のライマン・モアー校と生徒の交換留学を隔年で実施している。費用は保護者負担と区の援助で行っているため、隔年とはいっても不定期になることもあるそうだ。このあたりの費用の捻出が課題となっている模様である。

ウについては、同じ敷地に小中があるので、比較的スムーズに連携の打ち合わせが出来るようである。具体的には合同の運動会や行事の企画、中学教科担任の小学校へに出張授業、小中９年間のカリキュラムの企画立案などを行っている。

また、この学校のウェブページがとても充実している。これは、校長の中村先生の強力な推進活動に頼るところが大きかった。ほとんど校長がウェブページの管理を行っているからである。しかし、様々な行事や取り組みの発案者も校長であり、その強力な指導力がこの学校を支えている事を痛感した。

② 品川区立東海中学校

この学校は品川区の中でも、新しい取り組みを始めたばかりの学校である。そこで、職員の意識をどのように変える努力をされてきたか、保護者への巻き込みをどのように取り組んできたか等を中心に、話を伺ってきた。

この学校の特色は、

ア　公開授業推進校

イ　ボランティア活動

の２点にまとめられる。

アについてはこの学校を「基本的にはいつでも来て良い学校」として地域に公開している取り組みである。また、年に数回、選択授業を生徒と保護者や地域住民が一緒にうけるという企画を行っている。この活動の広報は、保護者へは学校からの手紙で、そして地域住民には公民館などにパンフレットを置かせてもらって行っている。また、町内会長などにも宣伝を依頼しているそうである。開かれすぎた学校は危険ではないかとの問いには、地域住民なら顔なじみであり、かえって知らない人が進入したらわかるので守ってもらうことが出来るのだという返事がきた。これからの学区の小中学校にも、顔見知りの地域住民がたくさん入る事による防犯という考え方があることを知った。しかし、この取り組みの一番の目的は、職員である先生の意識改革であるという。いつでも人に見られても良い授業をすることにより、それぞれのいつもの授業の見直しを行い、生徒によりわかり

やすいものへと変えていく努力を期待する。このことが最も大切な目的であり、先生の意識も確実に変わってきたことを教えていただいた。

イのボランティア活動については、学区内にある老人ホームに、生徒会を中心に定期的に訪問し掃除や介護体験、ゲームなどを行っているというものである。こうした施設と提携することで、定期的に行事を組むことが出来るケースは、注目すべきである。この先総合学習は全国で行われるようになると、活動先を探すのに苦労することが予想される。「福祉」をテーマに総合学習を行うところも増えてくるだろう。その際、安定した活動先を確保することは大切であり、小中学校はまず地域の施設から目を向けることが大切であるという示唆を受けたような気がする。

③　品川区教育委員会

今回この品川区の中学校および教育委員会へ訪問した目的は、公立中学校がこの先どのような改革を迫られるかを探るためである。その先進的取り組みとして、全国で初の「学校選択制」を取り入れた品川区教育委員会に、その理念と実践の話を伺った。

この新しい取り組みを行うことが出来た背景に、東京都の教育改革がある。東京都は今まで２３区すべてで同じような教育の取り組みをするような体制で教育をすすめてきたわけだが、地方分権が進み、品川区として教育課程を組めるようになったことから、品川区民に、他の区に負けない行政サービスを展開する一環として、教育の質を向上すべく立てられた「プラン21」という案を実施することとなった。学校選択制に、特色のある学校教育の推進と、新しい学校の地域に対するあり方を模索した内容となっている。

ア　学校選択制

一番の売りである学校選択制であるが、これは従来でも20分程度歩くところに２校の中学校があるこの区ならではの状況もこの制度の推進を後押しした。従来から調整区域が多かったのである。さらに、いじめ問題などから、学区を変えて通学する越境入学を認める制度も確立していたため、全く新しい試みとして行うほどのインパクトは無かったようだ。ただ、各中学校は、特色のある教育を打ち出さねばならなくなり、さらにそのことを地域住民にわかってもらう広報活動を行う必要も出てきた。このことは、地域住民ばかりでなく、教員の意識改革のも重大な影響を及ぼした。気を抜くと入学志望生徒が激減することになり、自分の教員としての評価にもつながりかねないからである。各学校はすべてウェブページを持ち、広報用パンフレットを用意し、学校説明会や地域に開かれた行事を進んで取り組み、地域住民と連携を深めながら教育活動をすすめていくという新しい学校のあり方を模索し、実践している。就学希望校の締め切りが迫る10月には、各中学校の教員が体験入学や学校内覧会、学校訪問の受付などを進んで実施している姿は、地域と一体になって教育をすすめようと努力している教員の今後のあり方に大きな示唆を与えてくれた。

イ　特色開発

学校選択制と連動して重要となってくるのが、各中学校の特色開発である。従来の教育では横並びなので、保護者は何を基準で中学校を選べばよいのかわからない。中学校の方でも入学者が激減しないためにも、他の中学校との差を「特色ある教育」としてアピールしたい。しかし、いきなり特色を出せといってもすぐに出来るわけではないので、品川区としてそのあたりをどのように組織

したかを尋ねた。そこで考え出されたのが、「推進校制度」である。もちろん、従来から特色のある教育（例えば城南中学校の人権尊重教育）を行ってきた学校はそのまま継続、発展をさせていけばよい。しかし、今後特色を開発していかなければならない学校については、品川区の教育委員会がいくつかのメニューを用意し、各学校がそのどれかを地域や学校の実態に応じて応募するような形で特色を出していくというやり方である。もちろん、このような特色を開発しながらも、独自の教育の開発も模索していくわけだが、いわば「呼び水」的な形で行うものである。その特色を挙げると以下のようになる。

a　個別学習（習熟度別学習）

b　教科担任制（小学校）

c　小中連携教育（小中一貫教育も視野に入れた教育）

d　公開授業（保護者だけでなく、地域住民も含む）

e　国際理解教育（小学校でのＡＬＴ、英会話、交換留学等）

f　福祉教育（介護、福祉、障害児との交流）

g　放課後施設利用

以上の中から各校が出来るものを選び、実践していくことで特徴を出させる一歩としている。また、この取り組みで、学校の統廃合をすすめようとするものではないという考えも伺った。特色を出し、地域住民の選択権を失わずに学校と地域の新しい共同体を生み出す研究をしていくつもりであるとのことである。

ウ　今後の課題

今回の教育改革に付け加えて、今後取り組むべき課題は「発信型情報提供」と「学校５日制に対する取り組み」、「人事と教員教育」であるとのことである。

「発信型情報提供」については、例えば、保護者に習熟度別の授業でどこまで学習したかを伝える取り組みをするなど、学校の取り組みを学校から保護者や住民に発信していく姿勢と機能を整備していくことである。学校に対する第３者評価への対応もこれで行うことが出来るようにしたいとのことである。

「学校５日制に対する取り組み」については、放課後対策事業との関連からの視点と、時間割の弾力的運用による効率的な学習、基礎基本の見直しと習熟度別学習の検討、行事の土曜以降と地域住民の参加・主催への移行など、取り組むべき課題が山積している状況である。

「人事と教員教育」については、人事がまだ全都単位で行われているため、他の区から来た先生に対して品川区の教育の取り組みを理解してもらうために、再教育をする必要があるが、時間的な問題からなかなか出来ない事へのもどかしさがある模様である。また、校長は自分の学校について、年間240時間の指導助手を雇って良いことになっているが、どのような人をどのような形で雇うかというマネジメント技術が要求される。この力をどのような場で新任校長につけていくかも、大きな課題である。

以上のようにたくさん今後の課題はあるが、品川区の中学校教育は確実に変化しており、この流れはやがて全国の公立中学校へと移ってゆくと思われる。こうした公立中学校の動きをふまえ、国立の中学校である本校がどのように変わらなければならないか、いっそう真剣に考えなければなら

ない。

④　自修館中等学校

神奈川県伊勢原市にある私立の中等教育学校である。比較的新しい学校であるため、本校の新たな教育に参考になることがあるのではと思い、学校説明会に参加し、その後に教頭先生にお話を伺った。

私立であるため、立派な校舎やお金をかけた設備など、本校には真似の出来ないこともあるが、主に参考になったことだけを報告することにする。

ア　戦略的な学校の設立

自修館中等学校は神奈川県の平塚に近いところに立っている。このあたりは私立高校はあるものの私立中学はほとんど無く、中高一貫の中等学校は通学圏にほとんど無い地域である。こうした地域にこそ教育の需要がある。また、そのような場所に中等学校を建てたとき、親のニーズがどこにあるかも考える必要がある。今の親のニーズは、「しつけ」と「知的学習力」に集約される。この二つに対応するものを用意しなければ、学校経営は成り立たないと考えている。

このことを附属に当てはめると、比較的多様な学校は近くにあるため、その学校との差別化をアピールしなければならないことがわかる。他校にない特色と保護者のニーズをうまくマッチさせた学校改革が附属に求められている。

イ　「しつけ」と「ＥＱ」

「しつけ」は自修館中等学校の初期に徹底的に行われる。また、「心の教育」として企業と提携したＥＱ教育（セルフサイエンス）を行っている。対人関係技術を深める教育を企業によるアウトソーシングで取り組んでいるところも注目すべき点である。本来は家庭教育の中で行われてきた「しつけ」と地域の教育力にゆだねられてきた「対人関係能力」の二つを、学校教育の中に取り入れることを明言し、カリキュラムの中に入れているという点は、保護者のニーズに対応するためのものであると同時に、今後、学校教育の中で取り入れざるを得ないと言う流れが見えてくる。附属でも中学生に「ソーシャルライフ」の授業を行ってきているが、企業がこの分野にも進出してきていることは驚きであった。

ウ　「知的学習力」

この学校が一番売りに出しているものがこれである。今の親の間の一番のニーズは、学校５日制による学力低下に対応する「知的学習力」を身に付けるカリキュラムであると考えている。そのために、授業時間の弾力的運用や、６年生９月までに全教科学習を終わらせるカリキュラム、基礎基本の充実と総合学習、土曜日の積極的利用など様々な試みが行われていた。授業時間の弾力的運用については、１時限目は100分、２時限目は50分、３時限目は80分、昼食をはさんで４時限目は50分、５時限目は週２日だけ60分行うというように、生徒の集中力に配慮した編成となっている。４限授業だけの日には、自主学習会や部活動日、今日に関心のある講座を選択してうける授業を用意するなど、自主的な活動の日となっている。また、６年生９月で全教科内容を終わるため、海外の進学にも対応しているという。さらに、１年間を均等に４つに分け、それぞれの変わり目に休みを設けた４学期制を設け、試験範囲の拡大を防ぎ、習熟度別クラス編成を細かくし直し、効果的な学

習を行うことで成果を出せるような取り組みが行われている。

エ　まとめ

自修館中等学校では、親のニーズと学校経営手段といった民間企業的な考え方による視点をいくつか得ることが出来た。附属がこの学校の取り組みをすべて真似することは出来ないにしても、今後の附属の学校改革に取り入れるべきことにどのようなものがあるかということについて、いくつかの具体例を見ることも出来た。今後、親のニーズや土曜日のあり方、思い切った特色の出し方と割り切りをどのように構築するか、検討を重ねて実践していきたい。